

士別市

6340 藤田 譲

1. 概要と歴史

1-1 地名の由来

アイヌ語の「シュペツ」(大いなる川)から由来するもので、街の中心を流れる天塩川を表している。「土、別れて三日なれば即ち更に刮目して相待つ」この意味は、男子たるものは別れて三日も経って合う時には目を見開いて見ないと別人ではないかと疑われるくらい進歩していなければならない、という三国志の呉志・呂蒙伝注引『江表伝』に記されている。

1-2 歴史

明治 32 (1899) 年、最北で最後の屯田兵の入植によって開拓の鍬(くわ)が下ろされた士別市は、全国で 4 番目の長さを誇る「朔北の大河・天塩川」のもたらす豊かな水と肥よくな大地に恵まれ、農業を基幹産業として発展してきた。昭和 29 年に、士別町・上士別村・多寄村・温根別村の 1 町 3 村が大同合併し、道内 20 番目の市として市制を施行、面積約 600 平方キロメートルのこの地に、一時は 4 万人の市民が生活していた。しかし、昭和 40 年代後半の米の生産調整などによって人口の流出が進み、近年の減少傾向は緩やかになっているものの、現在は約 23,000 人の市民が暮らしている。

表 1 士別市略年表

1897 年	新保寅吉が探検視察し、天塩村戸長役場の統治下に士別村が設置された。
1899 年	北海道最後の屯田兵 100 戸、家族を合わせて 622 名が名越源五郎中隊長の指揮の下入植。鬱蒼たる森林の開拓が始まった。
1901 年	和寒から士別まで鉄道が開通、交通の便が良くなり、開拓移住者も増えはじめ多寄、上士別、川西、下士別、温根別へと本州各県からの入植が続く。水稻の試作始まる。
1904 年	上士別が分村独立する。
1906 年	1 級町村制を実施して町となる。その時の人口は、10、550 人。
1910 年	士別軌道株式会社設立され上士別、朝日への交通の便がよくなり、産業が発展する。
1941 年	この年に始まる第二次世界大戦は生活にも不自由な厳しい時代となり、士別にあっても戦争の直接の被害はなかった。

- 1947 年 開基 50 年を迎えた士別では、この記念事業として士別小学校を会場として産業振興博覧会が開催される。士別の特産物や工業製品ばかりでなく芸術文化などの展示もあり 5 日間に 5 万人が集まった。
- 1948 年 近隣 7 ヶ町村の経済力を結集し、士別地方信用組合（現在の士別信用金庫）が業務開始するなど、士別の産業が徐々に回復してゆく。
- 1954 年 士別町、上士別村、多寄村、温根別村の 4 町村が大同団結し士別市となった。
- 1970 年 米の生産調整が始まる等時代の変化とともに、人口も減少し始める。
- 2004 年 朝日町との合併。これについては「2. 朝日町との合併」で述べる。

2. 朝日町との合併について

2-1 旧朝日町の概要

朝日町は、1907 年に御料地が貸下げられたことにより、開拓の鍬が下ろされた。1911 年には、帝室林野局所属庁舎（のちの営林署）が新設され、森林資源の管理・開発が行われるなか、農業と森林のまちとして発展してきた。特産物として、朝日ジャガや小径木を利用した銘木表札、優良道産推奨品の「朝日駒」などがある。

市街地の東方約 10km にある「岩尾内湖」とその周辺の美しく豊かな自然が、多くの人々に愛されている。また、ナキウサギなどの野生動物も生息する「天塩岳」は高山植物の宝庫として、昭和 53 年に道立自然公園の指定を受け、観光客も年間 12 万人を数えている。

2-2 合併までの経過

2003 年 4 月に和寒町・剣淵町・朝日町任意合併協議会設立する。7 月には 3 町任意協議会に士別市が加わる。しかし 12 月に和寒町・剣淵町が 1 市 3 町協議会から退会し、朝日町と士別市の 2 市町のみとなる。同月、田刈子士別市長が武市朝日町長を訪問し、「朝日町をパートナーとしていきたい」旨を伝える。2004 年 2 月には朝日町で市町村合併に関する説明会開催される。同年 3 月には士別市・朝日町合併協議準備委員会を設立される。同時に朝日町で町民（林正博代表）から「士別市を合併対象市町村とする合併協議会設置請求書」が提出される。有効署名数は 957 人（有権者数 1667 名の 57.1%）。これを受けて、武市朝日町長が田刈子士別市長に対し、議会に付議するか否かの意見を求める通知書を提出した。同年 4 月、朝日町で市町村合併に関する報告会開催。士別市との合併協議会設置に至った経過を報告。同月、士別市・朝日町両議会において、合併協議会の設置について議決。そして法定協議会としての「士別市・朝日町合併協議会」設置に至り、いよいよ合併への動きが加速してくる。そして 2005 年 9 月、士別市と朝日町との合併が達成され、新たな「士別市」としてのスタートを切った。

2 - 3 合併に至った背景

全国で展開されている合併運動の影響を受けての合併である。合併の理由としては 少子高齢化の影響による医療・福祉の問題 土別市の厳しい財政状況 日常生活圏の拡大などが考えられる。 土別市と朝日町の合併は全国で見られる典型的な合併の例だといえよう。

3 . 地理・気候

3 - 1 地理

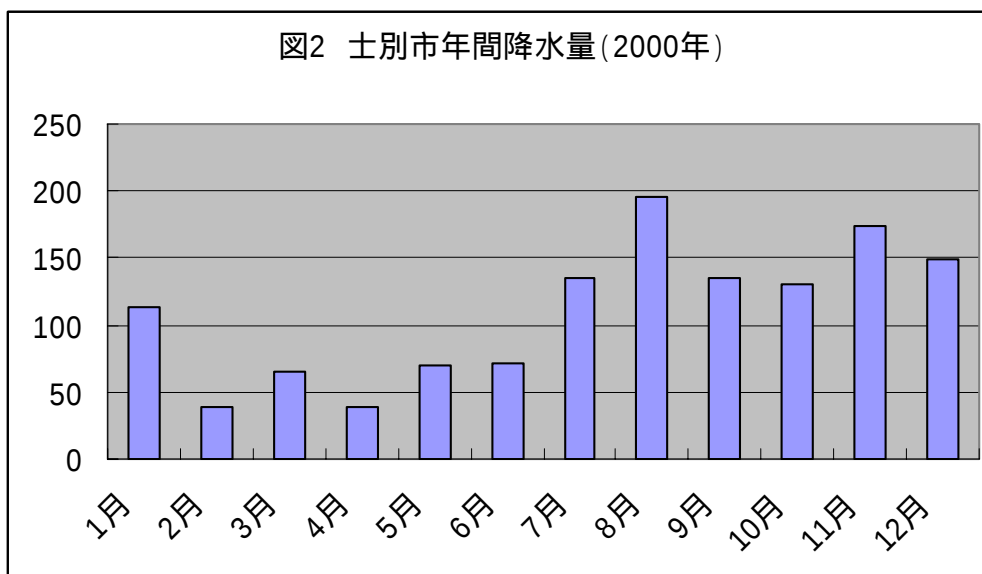
中心市街地は名寄盆地の南部、天塩川と剣淵川の合流点付近にある。市の東部は北見山地に、西部の温根別地区は天塩山地に続く山地となっている。市の東部にある岩尾内湖は天塩川の最上流である。面積は 111929 km²で現在の人口は 24005 人、人口密度は 21.25 人/km²である。

図 1 土別市の位置



出典：上川支庁 HP

3 - 2 気候

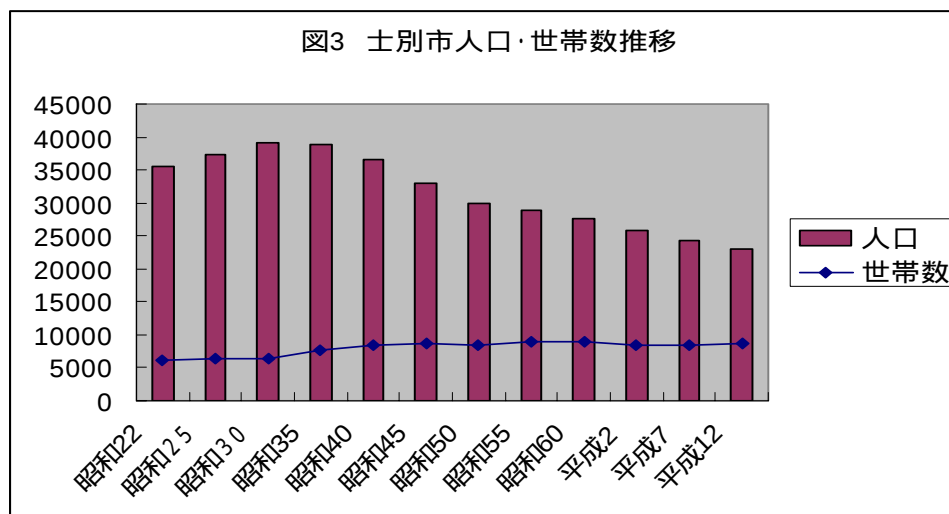


出典：土別市降水量

上川盆地の北部に位置する土別市の気候は内陸性気候で、夏は+30度以上になり、また逆に冬は-30度まで下がる。寒暖の差は実に60度北海道に住んでいないと、想像できないだろう。冬、気温が下がった晴天の朝は、空気中の水分が凍って朝日に照らされてキラキラと輝くダイヤモンドダストという現象を見ることができる。

本州との大きな違いは、土別市には梅雨がないことだ。よってグラフからも分かったおり6月の降雨量が少なくなっている。土別では、6月のこの時期が一番過ごしやすい時期となっている。

4 . 人口・世帯数推移

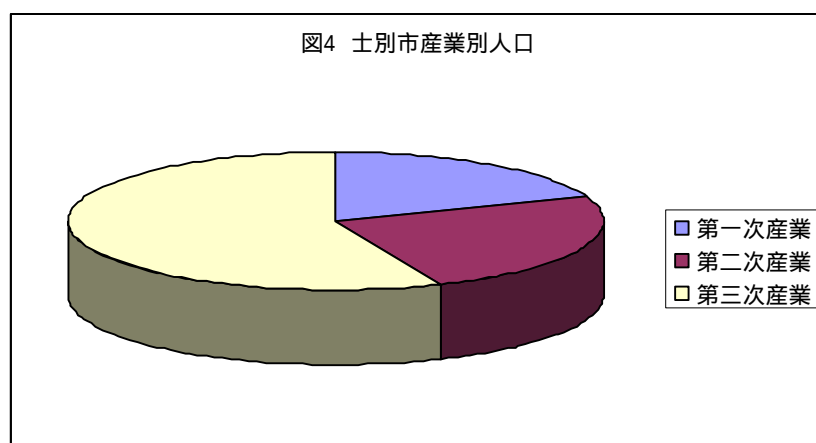


出典：土別市統計

士別市の現在の人口は、23674 人となっており男 11213 人、女 12461 人である。過去のデータを見てみると昭和 30 年の人口 39191 人がピークである。しかし、それからは年々人口が減少している。世帯数の変化が少ないことから、これは一世帯あたりの子どもの数の減少、つまり少子化の影響が見て取れる。

また、高度経済成長期に若者が年に流れ出た影響により老人が増え、若者が街からいなくなるという現象も発生している。これらのことより、少子・高齢化の影響が顕著に見てとれる。

5．産業

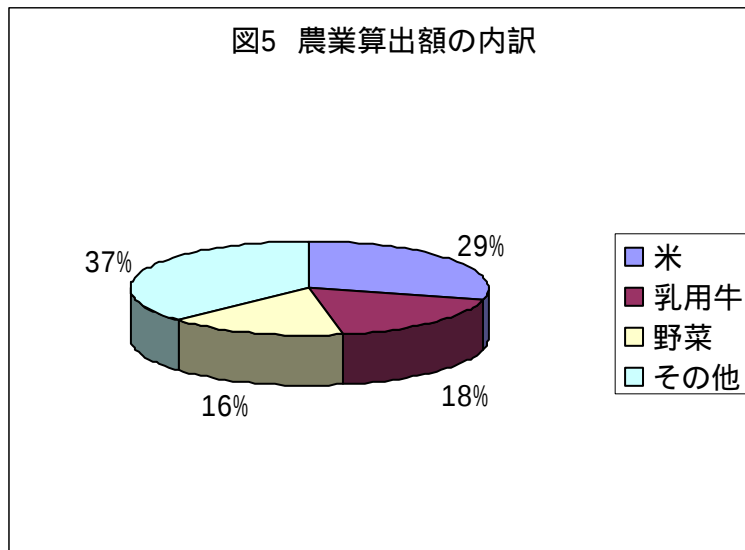


出典：士別市統計

士別市では、第一次産業が主たる産業であり、農業、林業、畜産業が中核を担っている。畜産業においては、「サフォークランド士別」をキャッチフレーズに羊の畜産に力を入れており、市営の牧場にはサフォーク種を中心に約 30 種類のめん羊が飼育されている。

また士別市は、北海道第 2 の長流「天塩川」が横断する、緑豊かなまちである。そんな自然感あふれる士別市の農業は、古くから稲作が盛んで、米の生産調整開始後から畑作や野菜の栽培も盛んになってきた。丘陵地帯では畜産も盛んに行われている。近年では有機物による「土作り」や、冷涼な気候を活かした「クリーン農業」を展開し、様々な農作物が栽培されている。

図5 農業算出額の内訳



出典：わがマチ・わがムラ士別市

上記したとおり、士別市では古くから米の栽培が盛んで米の農業算出額は全体の約 30 を占めている。栽培されている米の主な銘柄は、「きらら 397」や「ほしのゆめ」のうるち米や「はくちょうもち」のもち米である。北海道米の代表である「きらら 397」と「ほしのゆめ」は、茨城の「コシヒカリ」や秋田の「あきたこまち」と同じくらいのおいしさとの評価を受けており、本州産に負けないおいしさに成長している。

その他に含まれる主な農作物は小麦である。小麦は、9月上旬頃に種をまき、翌年の夏に収穫する「秋まき小麦」と、4月下旬に種をまき、夏に収穫する「春まき小麦」の2種類に分類される。主な品種は、秋まきが「ホクシン」「タイセツコムギ」、春まきは「ハルユタカ」「春よ恋」がある。秋まき小麦は、主にうどんや中華麺などの原料となり、春まき小麦は、主にパンの原料となる。

6. 観光

羊と雲の丘：広さ 37.4ha の緑の草原には、めん羊が草を食む姿を見ることができる。士別全体では約 1,000 頭のサフォーク種のめん羊が飼養されている。このめん羊牧場には、世界各国の珍しいめん羊 30 種類が飼養されている。また、この牧場の頂上には、天気の良い日に大雪山系を望めるほか、めん羊の放牧風景を眺めながら高級羊肉料理が堪能できるレストラン「羊飼いの家」がある。さらに観光シーズンには牧羊犬が羊を追うシープドッグショーが行われる。

図 6 羊と雲の丘



出典：ほっかいどうの旅

世界のめん羊館：世界のめん羊館には、世界各国のめずらしい羊 30 種が飼育されている。めん羊に関する資料などあり、羊とのふれあいが実感できる体験型施設である。

図 7 世界のめん羊館



出典：よりみち＊なび

日向温泉：日向温泉は、士別市の公共温泉旅館である。ご宿泊・日帰り入浴やお食事をする事ができる。国道 40 号線から西側に約 5km に位置している泉質は硫化水素で、しもやけ、リュウマチ性疾患、慢性中毒症状、ニキビに効果がある。

図 8 日向温泉



出典：士別観光協会 HP

祖神の松：北海道では最大とされるイチイ科の巨樹である。長野県にある国見のイチイなどと肩を並べるといわれる。樹形は2本が合体しているような形状である。裏側に回ると空洞が口を開いている。樹齢 1,000 年というイチイ（オンコ）の松で高さ 21m、直径 2.3 m、周囲 6.4mある。

図 9 祖神の松



出典：士別観光協会 HP

出典：

「士別市ウィキペディア」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%AB%E5%88%A5%E5%B8%82>

「士別市統計」

<http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-02/220/agriculture.html>

「士別市の年間降水量」

<http://www.wbs.ne.jp/bt/heisei-g/rain/data/rain01-hokkaido.html>

「士別市役所」

http://www.city.shibetsu.lg.jp/cgi-bin/odb-get.exe?wit_template=AM040000